

フェロモントラップの特性と
設置のポイント

そろそろ越冬したタバコシバンムシ、ノシメダラメイガ、ヒメマルカツオブシムシなど、主要な貯蔵穀物害虫の成虫が羽化を開始する時期です。これらの害虫は、発見が遅れると短期間で増殖するため、フェロモントラップを使って「どこで問題が発生しているのか」を絞り込み、早期に駆除することが被害拡大を防ぐ重要なポイントです。フェロモントラップを使用する場合、次のことに注意する必要があります。

まず、誘引効果の高いフェロモントラップは、雌の性フェロモンを放出して雄を誘引・捕獲する仕組みのため、卵～蛹や雌成虫が捕まらない点です。そのため、トラップのみでの駆除は難しく、清掃等により発生源となる食品残渣を取り除くことが重要です。

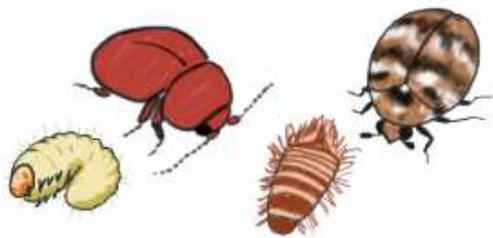
次に、設置に関してフェロモンは空気より重く、気流の影響を受けるため、10m間隔を目安に適切な高さに設置し、ライトトラップとも一定の距離を取ることが推奨されます。また、タバコシバンムシは飛翔後に壁伝いに移動する習性があるため、宙づりよりも壁面に固定して設置の方が捕獲効率が高まることが知られています（図1）。

弊社では、それぞれの虫の行動特性に合わせたフェロモントラップ設置のご提案を行っておりますので、お気軽にお問い合わせください。

設置位置	捕獲数
空間に設置 (宙づり)	100
壁面に設置 (壁付け)	69

図1. フェロモントラップの設置位置によるタバコシバンムシの捕獲数の違い

参考：北嶋ら(2007)タバコシバンムシの捕獲に及ぼすフェロモントラップの設置場所の影響, 衛生動物学会誌, 58巻45-51



タバコシバンムシ
(成虫・幼虫)

ヒメマルカツオブシムシ
(成虫・幼虫)

おすすめ



HIRESIS (ハイレシス)

特徴：特定の虫を集めるフェロモンを使ったトラップ。春はヒメマルカツオブシムシ対応のハイレシスがおすすめ

今月の豆知識

日本に伝来した「梅」

「日本の花」というと桜という印象が強いですが、奈良時代には梅の方が桜よりも人気がありました。

奈良時代の歌集『万葉集』の花を詠んだ歌の中で梅は萩に次いで2番目に多く登場し（桜は8番目）、昔の日本人の梅への関心の高さがうかがえます。

梅は中国原産の落葉高木で、奈良時代以前に観賞用や薬用として日本に伝来したといわれています。大陸から伝えられて間もない頃、花見といえば桜ではなく、珍しい舶来の植物であった梅の甘く優雅な香りを愛でることを指していました。

平安時代に入ると、食中毒や疫病を防ぐ薬用・保存食として、梅の塩漬が作られ、利用されるようになります。



戦国時代以降は、保存がよく栄養が豊富であることから、武士たちが兵糧食として梅干しを愛用していたようです。江戸時代になると、品種改良を重ねられ、現在の南高梅のような肉厚で大粒な実梅の栽培が本格化しました。

花見の文化は、平安時代を境に「梅」から「桜」へと主流が移り変わり、現代まで引き継がれていますが、現在の元号である「令和」の由来も『万葉集』の「梅の花の歌」に関連しています。

3月は梅、桃、桜が順番に見頃となり、春の訪れを感じるお花見シーズンです。古代から広く愛されてきた花の歴史を感じながら、県内各地の名所にお出かけしてみたいかがでしょうか。

